

委員会会議録

(社)滋賀県トラック協会

| | |
|------|----------------------------|
| 会議名 | 第9回「トラックの日」の事業実行委員会 |
| 開催日時 | 平成21年11月10日(火) 13:35~15:45 |
| 開催場所 | 滋賀県トラック総合会館 3F「研修室1」 |
| 出席者 | 委員13名、事務局5名 |

協議内容

開会にあたり竹備会長からあいさつがあった後、岡田実行委員長の議事進行により協議に入った。

- (1) 「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」の反省について
- (2) 広報事業の反省について

岡田実行委員長より出席委員に対し、意見を求めたところ次の発言があった。

- ・ 当日は天気も良く、予定より多くの人に参加して頂いた。
- ・ 支部によっては担当地域への移動等の問題もあり、スタートに時差がある。
- ・ 今後の課題となるが、資源ゴミと廃棄ゴミの分別に戸惑ったようであった。
- ・ 産業廃棄物もたくさん落ちていた。

- ・ 昨年よりも運営等上手く出来たと思う。
- ・ 参加者もたくさん来て頂いた。
- ・ この活動の本来の趣旨は日頃使わせて頂いている琵琶湖周辺道路を綺麗にするというボランティア活動である。参加者に参加費を出しているが、本来の趣旨に合わせなければならぬ。

- ・ 甲賀支部では、昨年の大津市和邇～新旭風車村から今年は近江八幡市の水茎の里～近江大橋東詰までと活動範囲が変更され、危険箇所もなく安全に出来た。
- ・ 当日は日曜日でサイクリングの人も多く通るので気を付けて活動しなくてはならなかった。
- ・ 甲賀支部は琵琶湖に接していないので、次年度は琵琶湖一周に拘らず地域での活動も考えても良い。
- ・ 参加目標数を大幅に超えて参加して頂いたが、参加費等予算のこともあり申込みを全て受け入れて良いか迷った。

- ・ 参加者は積極的にゴミを拾って頂いた。
 - ・ 活動場所への移動距離がある方には時間差で開会式会場から早く出発してもらった。
 - ・ 昨年も参加して頂いた人も多かった。
 - ・ 次年度はいつも通っている地域の道路のゴミ拾いをしてはどうか。
 - ・ 他の人が先にゴミ拾いをされているのか、ゴミがないので車道に出てゴミを拾おうとする人もおり注意した。
 - ・ ゴミを入れると破れることもあったのでゴミ袋をもう少し分厚いものにして欲しい。
 - ・ 火バサミを増やして欲しい。
-
- ・ 世間では自分の住んでいる地域のゴミ拾いをされている人も多く、滋賀県トラック協会も琵琶湖一周のゴミ拾いを行っているということを手く外に向かってPRする方法を考えるべきである。
 - ・ この活動を3年、4年と続けてから全国のトラック協会にもPRしていきたい。
-
- ・ 当社では参加者に対し休日出勤扱いとしたが、あくまでもボランティア活動なので協会からは参加費を出す必要はない。
 - ・ この活動の趣旨はどの程度まで一般の人に伝わっているのか？我々の活動を見て一般の人はどう思っているのか？そこも考えていくべきではないか。
-
- ・ この活動は単なるゴミ拾いではなく、我々業界をPRする「トラックの日」の事業として行っていることを念頭におく必要がある。
-
- ・ 昨年と同じ担当地域でスムーズに行えた。
 - ・ 和気あいあいと活動出来た。
 - ・ 全国的にもPR出来るよう最低3年は継続してこの活動を行わなければならない。
-
- ・ 参加費が足かせになって、申込者が多くて断ることを考えなくてはならなくなるのではないか。
 - ・ 昨年も他団体からこの活動に参加したいとの申し出があったが、参加費のことがあったので断った経緯がある。本当のボランティア活動として行い、例え参加人数が500名でも良いのではないか。
 - ・ 会員に対して活動後のフォローとして、支部長宛のお礼文章だけでなく「ご苦労様でした」の文章を参加会員宛にFAXするべきではないか。

- ・ 当支部は昨年と同じ地域を担当したので、又昨年と同じ会員が同じ区域で活動してもらったのでスムーズに出来た。
 - ・ 活動中、一般の人から労いの言葉を頂いた。
 - ・ 今年の4月、小学校新入学生に対し、昨年の活動等によって再生のクリアファイルを作成し送ったことを先生が説明し配って頂けた。このことを聞いた生徒も今年の活動に参加したいと言っていることを聞いていた。しかし、参加費が出来ていることもあり参加して下さいと言えなかった。
 - ・ この様なことを聞くと根強く活動をしていけばもっと業界を理解してもらえないか。
 - ・ 次年度は各地域単位で活動しても良いし、琵琶湖一周を活動しても良い。
 - ・ 1社でたくさん参加して頂いている事業所もあるが、1社でたくさんの参加よりも出来るだけ多くの会員が参加して欲しい。
 - ・ 参加費の件は、事業に参加してもらったお礼として参加費を渡してはどうか。参加費を渡しても良いと思う。
-
- ・ 交通事故防止総決起大会、その他協会事業では参加費は一切出していないが「トラックの日」の事業（「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」）だけが参加費が出ている。
 - ・ 客観的に見てこの活動について世間の評価はどうか？
 - ・ この「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」は単なるゴミ拾いではない。業界をPRする事業である。
 - ・ 今後も続け、近畿や全国にもPRしていきたい。
-
- ・ 「トラックの日」の目的は何か？業界をPRするものである。あまりボランティアを全面に出してしまうと社会にPRしにくくなるのでこの辺も考えて行う必要がある。
 - ・ トラック協会の事業として続けるなら参加費を出すのも致し方ない。
 - ・ 10年、20年続けないと社会に認められない。
 - ・ 活動場所の問題は、地域で行うなら個人的に行えば良い。滋賀県トラック協会で行うから「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」の事業名のとおり琵琶湖を一周するべきである。
-
- ・ ゴミ拾いをあまり全面に出し過ぎるとこの活動の趣旨が薄れる。PRの方法を考えるべきである。
 - ・ 他府県本社の事業所も地域のゴミ拾い活動を行っている。滋賀県トラック協会が行うのならやはり琵琶湖一周をするから意義がある。
 - ・ 継続は力なり、と言われる。続けるなら5年～10年は行った方が良い。もしくは次年度、内容を大きく変えていくか、先ずそれを検討すべきである。

- ・ 先ほども意見が出たが協会からの参加費だけでなく、事業者から休日出勤手当を出したり、事業者から参加費用を出すのは大きな問題である。

続いて、岡田実行委員長から事務局に意見を求めたところ次の意見があった。

- ・ 琵琶湖一周のゴミ拾いは、我々会員事業所が日頃使わせて頂いている道路を綺麗にしよう、滋賀県であることから特に琵琶湖一周の周回道路を綺麗にするから意義がある。それが目的である。社会にアピールするなら続けないと認められない。
- ・ 参加費の問題はあるが、本来はボランティアで行うのが本意である。
- ・ 当日、本部となるトラック総合会館には嘉田知事に来て頂き、「廃棄物不法投棄防止対策」について滋賀県と滋賀県トラック協会とで調印式を行った。この活動について知事も認識して頂けた。
また、先日、彦根市を中心に行われた滋賀県総合防災訓練でもわざわざ知事がこちらの訓練会場まで来てくださり、この活動についてお褒めの言葉を頂いた。
- ・ この活動や広報を通じて、一般の方はどう評価しているか知りたい。

続いて、岡田実行委員長は、参加費の問題はあるが、当日は知事も来て頂き、県の認識も変わった。報道では朝日新聞には採り上げてもらえなかったが、京都新聞には資料のように掲載された。テレビではびわ湖放送以外にもNHKにも採り上げてもらえた。広報活動についてこの「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」活動は2年目でもあり不足の部分もあるが、この活動の意義について、又この活動をどう評価されているかも考えていくべきである、と述べた。

また、「トラックの日」をPRするため、我々業界のPRするために「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」活動は単なるゴミ拾いで終わらないようにしていかなければならない、と付け加えた。

今いろいろと意見が出ているが、次年度も「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」を行うのか、違う事業を行うのか、先ずそれを決めないと話が進まないとのことから出席委員に意見を求めた。

- ・ 当初の目的を念頭に琵琶湖一周のゴミ拾いを行ってはどうか。
- ・ 全国的にも水環境に焦点を当てられている。その一環として空気の清浄化から綺麗な水を作ろうという考えになってきており、当県でも行っているが全国でも植樹が行われている。

特に当県は、滋賀県だけでなく、京都・大阪の水瓶として琵琶湖を持っており、琵琶湖を守っていかなければならない。その琵琶湖の周りを走っている道路を綺麗にすることは大変良いことである。

・・・等の意見が出、検討されたところ次年度も「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」を実施することとなった。

続いて、岡田実行委員長から広報事業について意見を求め、次の意見があった。

- ・ 一般の人から見た評価はわからないが、効果的な広報活動を行っていかねばならない。
- ・ 個人的な考えではあるが、昨年よりも良くなったと思う。
- ・ 今年はびわ湖放送の番組の中で7分程時間をもらって「トラックの日」のPRを行ったが、来年度は30分の番組（録画）が出来ないかと思う。
- ・ マスメディアはテレビ・ラジオ・新聞とあるが、どれに力点を置くかは後で決めるとして、来年度は広報事業に力を入れるべきである。

また、近畿各府県で「トラックの日」の事業内容は様々であるが、広報として電車の中吊りは近畿トラック協会として行っている。それ以外では各府県ばらばらで広報活動を行っているので近畿一本で出来ないかといつも提案をしている、との報告もあった。

その他、次の意見があった。

- ・ もし参加費がなければ1,250名も人が集まらないと思うか？との質問があり、各支部長より、恐らく数割は減ると思われる、半減するかも知れない、若干減るのではないが、やってみないとわからない、割当数は確保出来る、と様々な回答があった。
- ・ 参加費の件では先ほども意見があったが、参加したい人まで断ろうかと思ったり、ボランティア団体や会員外の小学生が参加したいと言っても断らないといけないのは参加費が足かせになっているのは確かである。
- ・ この活動は滋賀県トラック協会の事業であるので、参加費を出すことは悪いことではない。
- ・ ・ ・等の意見が出、参加費の問題は今後も継続して検討していくこととなった。

また、次年度は交付金が頂けるのか、何割かカットされるか今のところわからないが、こういったことも踏まえ、この「トラックの日」の事業や他の協会事業についても各委員会でどの事業を行うのが優先順位を検討していかなければならない、との意見もあった。

岡田実行委員長は、来年度もワンステップアップし「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」活動を行っていききたい。広報についても更に力を入れていききたい。「エコ・セーフティドライブコンテスト」は全国的にも増えつつある。来年度も効果がある事業を行っていききたいので協力願いたいと述べた。

(3)「びわこ地球市民の森」植樹について(報告)

事務局から次により報告があった。

今年で5年目になるが、去る11月5日(木)午前、草津市「信愛幼稚園」園児55名・父兄55名・先生3名の計113名と、守山市「立入ヶ丘幼稚園」園児72名、先生9名の計81名、合計194名により1000本の植樹を行った。

続いて、環境対策委員会担当副会長でもある安田副実行委員長から、今年はマスコミの取材は新聞社が昨年の半分しか来ておらず、テレビ局はゼロであった。又、後2年でこの「びわこ地球市民の森」は全て植樹で埋め尽くされることになるが、全日本トラック協会でも来年度も植樹事業を行う計画をしており、当環境対策委員会でも次年度、引き続き実施したいと思っていることを付け加えた。

この報告を受け、岡田実行委員長は、次年度上手く広報出来るように力を入れていききたいと述べた。

(4)その他

事務局より前回の実行委員会で「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」活動で湖南支部が木戸市民センターに駐車場使用の依頼を中西委員が行った際、市民センターの担当者から旧国道161号線の旧志賀町鶴川地先にトラック等が休憩で止まりゴミを捨てるので、現状についてトラック協会から広報して欲しいとの依頼から、先日、資料のとおり写真を撮りに行ったことを報告した。

その時、ゴミは殆どなかったが、止まっている車両のナンバープレートの県のトラック協会に、「トラックの日」の事業予算が余ればチラシを作成し会員宛に配布してもらおうと考えていることを併せて報告した。

続いて、事務局から、先日の「おしらせ」で「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」当日、滋賀県と調印を行った「廃棄物不法投棄防止対策」について車両に「なくそう！不法投棄」のマグネットシートを貼りこの運動を行うが、その参加申込みについて委員に対し参加依頼を行った。

また、来年度の「エコ・セーフティドライブコンテスト」の実施日程について、第1希望を6月13日（日）、第2希望を6月6日（日）としていることを確認した。

最後に竹備会長から、来年度は今のところ交付金がどうなるかわからない、「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」の参加費の問題、今年度は「廃棄物不法投棄防止対策」の調印で知事に来て頂いたこともありNHKが取材に来てくれたが、来年度はどうなるかわからないので更に広報に力を入れる必要があると述べた。

次回実行委員会

日 時 平成22年1月開催予定
場 所 未 定